



ふるさと笠松の「モラルセンス」No.4



「愛すること」の反対は「無視すること」

マザー・テレサの名言より：1979年ノーベル平和賞受賞



マザー・テレサ

愛することの始まりは何でしょう？それは名前を覚えることです。そういえば、学校で飼育しているウサギやニワトリの名前を、子どもたちはすぐに覚えます。

では、「愛すること」の反対は何でしょう。「嫌う」ことでしょうか？それとも「憎む」ことでしょうか？

マザー・テレサは愛することの反対は「無視すること」だと教えてくれました。無視は英語ではneglect(ネグレクト)です。私たちは、子どもが「この本読んで。」と言ってきたり、「ね、ね、こっちで一緒に遊ぼう。」と、呼びかけてきても、「今、忙しいの。後でね。」とか、「一人で遊べるでしょう。」とか、つい言ってしまいます。そんなとき、今、自分は愛することの反対の行為をしているのだと気付いてください。

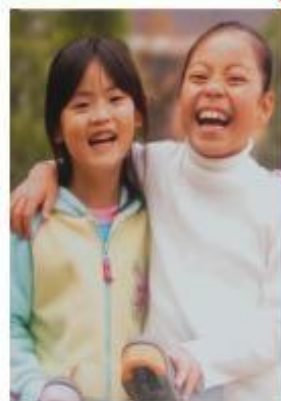
無視と同じ意味の言葉に、中高生などがよく使う「しかと」という言葉があります。この言葉は「花札の紅葉の札に描かれている鹿が後ろを向き、知らん顔をしているように見えること」から「しか(鹿)と」という言葉が生まれました。「無視」も「しかと」も、愛することの反対の行為ですね。

「よい親は子どもと共に笑い、 よくない親は子どもを笑う。」

子どもにとって、大切な人は親です。とりわけ母親は一番大好きな恋人と言ってもよいでしょう。母親の笑顔は「私はあなたを愛していますよ。」「あなたのことを信頼していますよ。」という重要なメッセージです。母親の笑顔は、子どもにとって自信、安心、意欲や元気のもとです。子どもにどれだけたくさんの笑顔を見せられるかが、よい親の大事なポイントです。母親が笑顔で子どもに接すれば、子どもも母親に笑顔を返してくれるはずですよ。

母親と子どもの笑顔の交換、これこそが子育ての基本です。あなたのとびきりの笑顔で、今日もお子さんにふるまってください。嘲笑や冷笑ではなく、ニコニコ笑顔の交換をしましょう。

「北畑 英樹 著 子どもは育つ(中央法規)」参照



石畳散策・・・「ふるさとの歴史と自慢」を求めて

「森 蘭丸の祖父 森 泰可氏の居城跡が田代にあります！」



↑ 森 蘭丸

松枝小学校の北の田代に、蓮台(れんたい)城があったと言われています。城主であった森家は、美濃守護 土岐氏に仕え、1340年頃からおよそ200年の間、館を構えていました。1520年頃に城主だったのは森 泰可(やすあき)氏です。泰可の子の可成(よしなり)氏は織田信長に仕え、桶狭間の戦いで手柄を立て、烏ヶ峰城(現在の可児市兼山町の兼山城)を賜りました。↑この付近が森越後守居城跡。可成氏の三男は森 蘭丸です。15歳で織田信長に仕えた蘭丸は、信長の寵愛を受け、小姓から奉行になり、美濃岩村6万石を与えられました。しかし、本能寺の変で弟の坊丸、力丸と共に、信長の側近として奮戦しましたが、あえなく討ち死にしました。



↑この付近が森越後守居城跡

知って得・雑コーナー

問題「小姓(こしょう)とはどのような仕事をする職でしょうか？」

小姓とも書きます。將軍の側に仕えて、身辺の雑務を世話する役です。江戸幕府では数十人いました。また、殿中の警護もしました。

「モラルセンス」に関するお問い合わせ

〒501-6083 羽島郡笠松町常盤町6
笠松中央公民館 電話 058-388-3926